〔倭訓栞前編七幾〕きのふ　きのふはけふのむかしといへるは、孟子に昔者をよめり、昨日の義、疇昔之夜は昨夜也、新後拾遺集に、

わかれにし月日やなにの隔にてきのふは人のむかしなるらん

〔日本書紀十一仁德〕元年正月己卯、初天皇生日、木菟入于產殿、〇中略大臣對言、吉祥也、復當昨日臣妻產時鷦鷯入于產屋、

〔竹取物語〕きのふ今日、帝の宣はん事につかむ人聞やさしといへば、〇下略

〔伊勢物語下〕昔男わづらひて、心ちあぬべくおぼえければ、

つねにゆく道とはかねて聞しかどきのふけふとは思はざりしを

〔書言字考節用集二時候〕一昨日萬葉

〔日本釋名上時節〕一昨日〇中略　おとはあとなり、あとおと通ず、あとつ日なり、昨日のあと也、つはやすめ字也、俗にはおとゝひと云、つととと通ず、

〔東雅一天文〕晝ヒル〇中略　俗にキノフの前日を、ヲトツヒといひ、コゾの前年をヲトゝシといふが如き、ヲトといふはヲチ也、今を去る事の遠き也、古語に遠きをいひて、ヲチともヲテともいふ、チといひテといひトといふ、皆轉語にて、ヲトツヒといふ、ツは語助なり、俗にヲトゝヒといふは轉語なり、

〔萬葉集六雜歌〕九年〇天平　丁丑春正月、橘少卿并諸大夫等集彈正尹門部王家、宴歌二首、

前日毛、昨日毛今日毛、雖見明日左倍見卷、欲寸君香聞、

右一首、橘宿禰文成、

〔萬葉集十七〕思放逸鷹夢見感悅作歌一首并短歌

安之我母能、須太久舊江爾、乎等都日毛、伎能敷母安里追、〇下略